

第4号発刊によせて

生命健康科学研究所長 杉山 達夫

私達の研究所は、“よりよく生きる”の実現に向けて、ヘルスサイエンス領域の安全・安心をモットーに、ライフサイエンスに立脚した新しい開発型科学技術の創成を目指しています。具体的には、生活習慣病や新型感染症など、現代の疾病と健康障害を対象にして、予防と治療および看護と介護のための新たな薬物、資材・機器科学技術、医療・看護技術ならびに関連する技術と教育システムの開発に向けた研究を推進しています。それは、社会のニーズに応えることでもあり、また、ヘルスサイエンス領域の学生教育にも資するものであると考えます。

当研究所では、研究活動の年度成果を、学内外に広く紹介するとともに、学生教育への一助とするために、解説的に紀要に掲載することにしております。本年度発刊の第4号には、当研究所で実施致しました学内公募による萌芽研究の成果および“発症までの病態時間軸を踏まえた環境因子により誘発される加齢関連疾患の予知・予防方法開発の集学的研究”のタイトルの下に実施致しました研究成果とともに、本学の生物機能開発研究所との共催による「第2回中部大学ライフサイエンスフォーラム」での講演者、理化学研究所感染症研究支援センター長永井美之氏の“センダイウイルス：基礎研究からバイオベンチャーへ”の講演内容を収録致しました。当研究所では、活動の内容を、学生の教育に資するとともに、社会の皆様へのご紹介を念頭におき、本紀要の編集を致しております。

多くの方々にご一読賜わり、当研究所の活動にご理解とご支援をいただければ幸いです。